

まちの話題

5/9, 17 長崎県ねんりんピック 7種目に47人の選手が出場

第23回長崎県ねんりんピック上位結果（敬称略）



●マラソン（県立総合運動公園）

男子5km（70歳以上）③末永 悦二

●バウンドテニス（長与町民体育館）

団体ダブルス ③松浦 A

●水泳（大村市屋内プール）

男子50m自由形（65～69歳）②山崎 徳行

女子50m背泳ぎ（65～69歳）①山崎 京子

女子25mバタフライ（65～69歳）②山崎 京子

女子50m自由形（75～79歳）③川下 眞里子

女子25m背泳ぎ（75～79歳）③黒田 万里子

5/26 地域の相談役として活躍

民生委員・児童委員に対する厚生労働大臣特別表彰

民生委員・児童委員に対する厚生労働大臣特別表彰の伝達が文化会館小ホールで行われ、令和7年度に退任した4人へ表彰状が贈られました。（敬称略）



●20年以上貢献

永田 俊子（福島・福崎）

迎 勇五郎（調川・前浜団地）

●75歳以上、15年以上貢献

奥野 幸子（星鹿・川原辺田）

宮本 徳昭（今福・仲町）

5/31 スポーツで交流深める

第26回長崎県障害者スポーツ大会

長崎県立総合運動公園トランスコスモスタジアム長崎を主会場として、同大会が開催されました。



本市からは、短距離走やソフトボール投げ、ジャベリックスローなどの陸上競技に17人、卓球競技に1人、フライングディスク競技に1人、ユニカール競技に9人の選手が参加し、それぞれの競技において健闘され、大会を通じて選手同士で交流を深めました。

6/3

黄色の傘で交通安全

JA ながさき西海による市内小学校1年生への傘贈呈



黒川教育長へ傘を贈呈する
折原常務理事

同組合（田中芳秀代表理事組合長）は、市内の小学校1年生に、雨が降る日も安全に登校してもらおうと、ドライバーからも目立つ黄色の傘134本を贈呈しました。この取り組みは、令和元年度から毎年行われています。

贈呈された傘は、一部に透明なビニールが使用され、傘をさしても前が見えるつくりになっています。

折原常務理事は、「少しでも交通事故防止につながれば嬉しい」と贈呈にかかる思いを話しました。

6/5

いもの苗植えを通して地域交流

志佐小学校の体験学習活動



志佐小学校が体験学習活動として行っているサツマイモの苗植えが志佐町里地区の畑で行われ、4年生47人が参加しました。

この活動は地域や農業、食への関心を高め、食の大切さや感謝の心を養うため38年前から毎年実施されています。

この活動の場となる畑の管理、苗の提供などは老人クラブ「里不老会」が全面的にサポート。

苗植え当日は会のメンバー約20人が子どもたちに植える深さや向きを教えながら一緒に苗を植え、地域での交流が深まりました。

6/6

星鹿の新しいまちづくり、始まる

星鹿地域まちづくり運営協議会「^{カモーン}星 COME ON！」

同会の設立総会が開催され、初代会長に池野晋一さんが選出されました。

まちづくり計画では、「よかばい星鹿 ほしかもん（者・物）がそろう町」を将来像に掲げて、地域内の団体間の連携、住民の協働により、誰もが安心して暮らし続けられ、交流とにぎわいが生まれる魅力ある地域づくりを目標としています。

今後は、観光・文化・福祉・防災など幅広い分野で地域の特色を活かしたまちづくりを推進していかれます。



6/3, 8

おいしい新茶ができました

JA ながさき 西海茶業部会松浦地区部会（吉原貞吾部会長）



同部会は、市内の生産者が収穫した新茶を県と市にそれぞれ贈呈しました。

市内で生産される「蒸し製玉緑茶」は、ほのかに甘く、飲んだときの口当たりがまろやかなのが特徴で、全国で生産されるお茶の約3%にとどまる、極めて希少なお茶です。

今年は、県内生産者を代表し、吉原部会長が淹れたお茶を平田知事に贈呈。

翌週は、井手副部会長とともに市役所を訪れ、友田市長に贈呈しました。

6/10

中学生が市役所の仕事を体験

中学校職場体験学習



市内の中学校では、働く大切さや勤労意識を養うことを目的に同学習を行っています。

生徒は自身の希望する職種を選び、市内のさまざまな事業所で2～3日間体験します。

今回は、市役所を訪れた5人のうち、志佐中学校3年の山田笑歌さんが、市報づくりに取り組みました。生徒が作成した記事を紹介します。



志佐中学校3年生の職場体験学習に密着！！

私は、志佐町にある「有限会社 法知園」高野工場で職場体験をしている岩永千陽さんと久保川瑠奈さん取材しました。

「有限会社 法知園」は、1985年に設立され、ギフトの販売、お茶の製造・販売を行っており、今年で41年目となります。この日2人は、ギフト用の箱の組み立てを体験。

組み立てをする時の力の入れ方に苦労しながらも真剣な表情で丁寧に取り組んでいました。

作業を教えていた従業員の小川佐知子さんは「仕事をしてお金をもらうことの大変さを知り、両親への感謝も感じてほしい」と話してくれました。

